

後藤 隆浩 GOTO Takahiro

ごとう たかひろ

職位	専任教授
取得学位	文学修士（平成2年3月）名古屋大学
最終学歴	筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科各国文学専攻単位取得満期退学
専門分野	イギリス文学
主な担当科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ-1、英語Ⅲ-2、外国書購読B
研究テーマ	20世紀イギリス文学における言語と共同体
所属学会	大塚英文学会、筑波イギリス文学会、筑波大学比較・理論文学会、大学英語教育学会、日本英文学会、日本比較文学会、国際文化表現学会、日本英学史学会

教育・研究内容

1. 国際化の進展する現代社会において、英語を技能として使いこなす能力が、ますます求められてくると思われます。授業においては、まず学習者に英語の重要性、必要性をよく理解してもらい、学習意欲が高まり持続するよう適切なアドバイスをしていきます。段階的語学トレーニングを行い、英語運用能力の基礎を固めます。
2. TOEICや英検など、英語の資格試験の内容、学習法についての説明を行い、実際の受験にも十分対応できるよう具体的に指導いたします。社会的に役立つ生きた英語力の養成を目標としております。
3. 今までの授業経験に基づいて、工夫をこらした効果的な授業を提供いたします。英語学習が楽しくおもしろくなるように、いろいろなコツや文化的知識などを伝えていきたいと思います。イギリス文学研究から得られた知識を、比較文化的視点で授業に活用していきたいと考えております。英語教授法の研究という観点から、英学史にも関心をもっております。

学術論文

1	Narration in Heart of Darkness （『闇の奥』における語り）（修士論文）	平成2年3月	名古屋大学大学院文学研究科
2	『闇の奥』における小説作法と作品世界	平成3年12月	『The Quiet Hill』（静岡大学英文学会）第11号
3	『ナーシサス号の黒人』における曖昧な語り手	平成5年3月	『OTSUKA REVIEW』（大塚英文学会）第29号
4	『ロード・ジム』における語りの二重構造	平成5年8月	『シュンボンシオン』（シュンボンシオン同人会）12号
5	語ることと書くことの共生－『エイミー・フォスター』試論－	平成7年9月	『筑波イギリス文学』（筑波イギリス文学会）第1号
6	土着と変容－“Amy Foster”におけるイメージ化の問題－	平成8年3月	『OTUKA REVIEW』（大塚英文学会）第32号
7	小説言語の発見－Almayer's Follyの位相－	平成8年12月	『The Quiet Hill』（静岡大学英文学会）第12号
8	言語と状況－Almayer's Follyにおける土着形態－	平成9年4月	『OTUKA REVIEW』（大塚英文学会）第33号
9	言語・土着化・共同体－“Amy Foster”におけるpatriotismの問題－	平成12年12月	『筑波イギリス文学』（筑波イギリス文学会）第6号
10	“Youth”における東洋	平成13年8月	『OTSUKA REVIEW』（大塚英文学会）第37号
11	“Typhoon”における語りの戦略	平成14年1月	『筑波イギリス文学』（筑波イギリス文学会）第7号
12	Heart of Darknessにおける語りの構造	平成14年10月	静岡産業大学論集『環境と経営』第8巻第2号
13	「秘密の共有者」におけるテキストの構造	平成18年10月	『言葉の絆』藤原保明博士還暦記念論文集（開拓社）
14	“The Lagoon”における深層構造	平成20年12月	静岡産業大学論集『環境と経営』第14巻第2号
15	“Typhoon”における差異の構造	平成25年3月	静岡産業大学論集『環境と経営』第18巻第2号

16	“Typhoon”における他者の構造	平成26年12月	静岡産業大学論集『環境と経営』第20巻第2号
17	“An Outpost of Progress”における実存の構造	平成28年6月	静岡産業大学論集『環境と経営』第22巻第1号
18	“An Outpost of progress” における疎外の構造	平成28年12月	静岡産業大学論集『環境と経営』第22巻第2号
19	“An Outpost of Progress” における虚の構造	平成29年6月	静岡産業大学論集『環境と経営』第23巻第1号
20	“Kararin: A Memory” における幻想の構造(査読付)	平成30年12月	静岡産業大学論集『スポーツと人間』第3巻第1号
21	“Kararin: A Memory” における幻想の生成(査読付)	令和2年2月	静岡産業大学論集『スポーツと人間』第4巻第1号

学会発表

1	The Nigger of the ‘Narcissus’ における多声性	平成4年3月	筑波イギリス文学会平成3年度第2回例会(於筑波大学)
2	“Typhoon”再読	平成7年7月	筑波大学比較理論文学会平成7年度第1回例会(於筑波大学)
3	Yanko はどこから来たのかー“Amy Foster”におけるテキストと現実ー	平成7年8月	筑波イギリス文学会平成7年度第1回例会(於筑波大学学校教育部)
4	ジョウゼフ・コンラッドの文化研究	平成15年3月	国際融合文化学会第6回国内大会(於日本大学会館東京都市ヶ谷)
5	エドワード・W・サイドにおける異文化遭遇	平成16年3月	国際融合文化学会第7回国内大会(於日本大学会館東京都市ヶ谷)
6	現代日本文学におけるJoseph Conrad	平成17年2月	日本英文学会第400回本部例会(於東京都台東区民会館)
7	「秘密の共有者」における語りと意識	平成17年3月	国際融合文化学会第8回国内大会(於日本大学会館東京都市ヶ谷)
8	語り・差異・認識ー“Typhoon”におけるテキストの構造ー	平成17年5月	国際文化表現学会2005年度(第1回)大会(於日本大学法学部)
9	コンラッド「秘密の共有者」の現代的意義	平成17年11月	国際融合文化学会第9回国内大会(於瑞雲会館 静岡県熱海市)
10	“An Outpost of Progress”における心的現象	平成20年5月	国際文化表現学会2008年度第4回大会(於日本大学文理学部)
11	“Typhoon”における他者の問題	平成24年12月	国際文化表現学会2012年度東京研究会(於日本大学文理学部)
12	“ Karain : A Memory ” における語りと幻想の問題	平成29年12月	国際文化表現学会2017年度東京研究会(於日本大学法学部)